

大津 陽子(言語・音声トレーニングセンター)

『心で弾くピアノ』音楽による自己発見』

大方偶然の撚り合わせと思われる出会いの糸も、振り返ると、そこに導きの力が感じられるのは不思議である。

本書の翻訳に係わるようになったのは、私の叔父、佐藤覚が芸大音楽学部の英語教師をしていたことが発端である。在職中のご縁で、ピアニスト中山靖子名誉教授から翻訳のお話を受けた叔父を、私が手伝うことになった。

原書の厚さと詳細な説明に音楽門外漢の叔父の筆は遅く、いつしか手伝いの私が車輪を駆る役目となり、後部座席に退いた叔父の助けを受けつつ、ようやくゴールに到達した。翻訳のお話を頂いてから4年目、1999年のことである。

著者であるセイモア・バーンスタイン氏を初めとして、さまざまな方と知り合い、教を頂き、自分を鍛練できたことは、本書の内容にも重なった。今は、この与えられた貴重な出会いに感謝するとともに、図書館の一隅に収めていただくことを喜びに感じている。

(2002年11月 教官アーカイヴ展に寄せて)